

腸管出血性大腸菌感染症に注意

県内で、腸管出血性大腸菌感染症の患者が多数発生しています。とりわけ今回は高齢者の発症が多く、なかには重症例も見られます。次のことに気を付けて、暑い夏を乗り切りましょう。

腸管出血性大腸菌とは？

大腸菌の多くは人や動物の腸内にすんでいて、一般的には病気の原因になることはありません。しかし、157に代表される腸管出血性大腸菌は、強力な毒素を作り、腹痛や血便などの症状を起こすだけでなく、乳幼児や高齢者など抵抗力の弱い人は、貧血・尿毒症を併発して命にかかわることもあります。

この菌は、家畜の腸内にいることがあり、さまざまな経路を経て食品や水を汚染し、感染の原因になると考えられています。詳しいことは分かっていますが、かかっていません。

いずれにしても、衛生面に配慮し、感染を防ぐことが大切です。

注意すること

食中毒と同じ方法で予防できます

帰宅時、調理前、食事前などには十分に手洗いをする
調理器具は食材ごとに使い分け、清潔な器具を使う
食材はよく洗い、十分に加熱する
冷蔵庫で温度管理をする
調理後は早めに食べる
生鮮食品や調理後の食品は冷蔵庫で保存し、時間がたつ過ぎた食品は捨てる
乳幼児や高齢者など抵抗力の弱い人は、肉・レバーなどの生食を控える
井戸水は生のまま飲まない

気になる症状がある場合は、早めの医師の診断を

おもな初期症状は「腹痛」「下痢」などで、さらに進むと水溶性血便になります。

腸管出血性大腸菌感染症（O157）についてのお問い合わせは、市健康増進課 02069、または津山保健所 01111へどうぞ。

東京通信 37便

津山市東京事務所 03 3592 7955
ホームページ <http://www.city.tsuyama.okayama.jp/tokyo/>

東京駅で津山をPR

〜観光大使の押阪忍さん〜

6月10日・11日の両日、東京駅八重洲中央口イベント広場で「DISCOVER WEST・山陽路の旅」と題した観光展が行われました。

オープニングには津山市観光大使の押阪忍さんが登場。積極的に津山をPRしました。

「津山市出身の総理大臣は？」、「津山市出身の著名な男優は？」など、津山の「顔」についてクイズを出題。さらに、来春まで行われる津山城築城400年記念事業を紹介しました。



押阪さんが登場中、巧みな話術に会場は終始和みっぱなしでした。

さくらまつりや築城400年のポスターがはられた会場では、「よみがえる津山城」のコンピュータ・グラフィックスの映像も放映され、足を止めて見入る通勤途中のサラリーマンの姿が見られました。押阪さんは、今後大阪で行われる観光と物産展にも観光大使として参加される予定です。

